

## 「令和 2 年青森県鉱工業生産指数年報」の概要

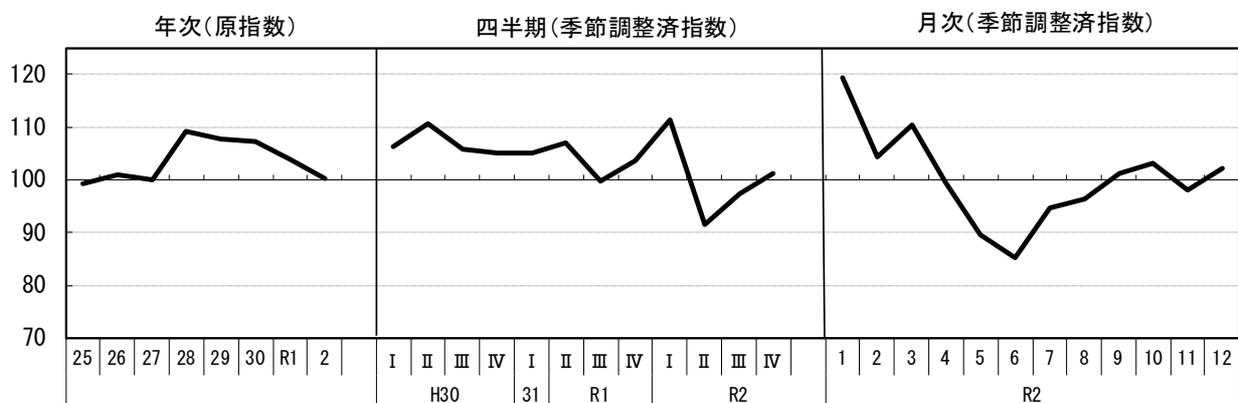
### 1. 概況

令和 2 年の青森県鉱工業生産指数は 100.3 (原指数：平成 27 年=100) で、前年比 3.4% の低下となり、4 年連続で前年を下回りました。

四半期別 (季節調整済指数) でみると、第 I 四半期は前期比 7.4% の上昇、第 II 四半期は同 18.0% の低下、第 III 四半期は同 6.6% の上昇、第 IV 四半期は同 3.8% の上昇となりました。

第 1 図 青森県鉱工業生産指数の推移

(平成 27 年=100)



### 2. 業種別の動向

業種別にみると、24 業種中上昇したのは、電子部品・デバイス工業(前年比 +21.6%)、電気機械工業(同 +12.6%)など 5 業種で、低下したのは、皮革製品工業(同 -66.5%)、はん用機械工業(同 -35.0%)など 19 業種でした。

変動に寄与した主な業種をみると、電子部品・デバイス工業、電気機械工業、食料品工業等が上昇に寄与した一方、業務用機械工業、輸送機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業等が低下に寄与しました。

第 2 図 令和 2 年 業種別寄与度 (原指数)

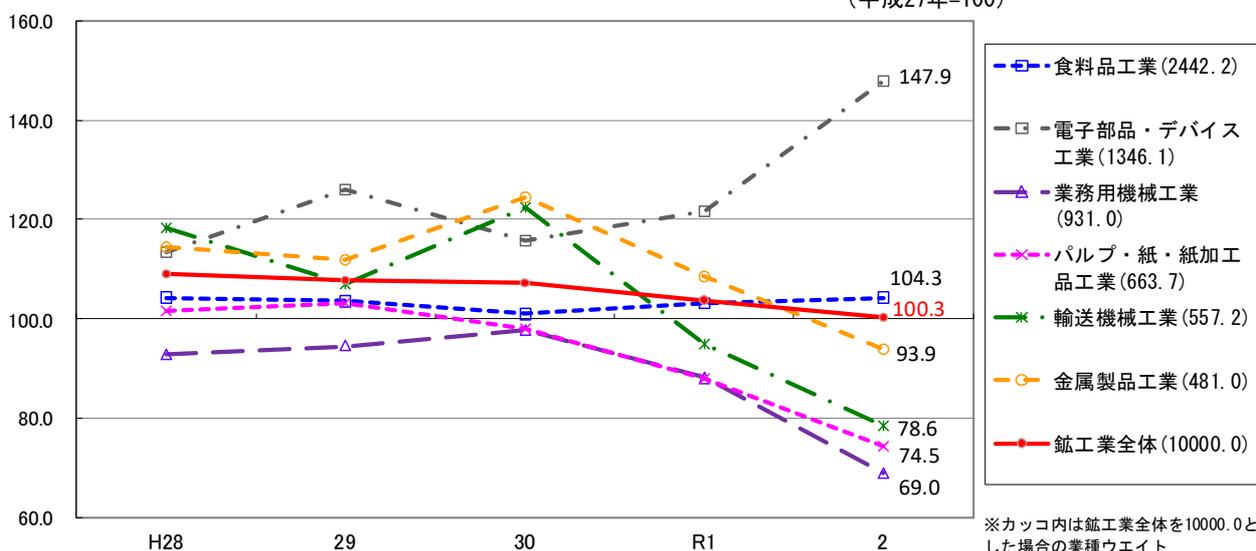


第1表 令和2年青森県鉱工業生産指数 前年比、寄与度等（原指数）（平成27年=100）

	令和2年	令和2年 対前年比 (%)	令和2年 寄与度	主な変動寄与品目	
				上昇	低下
鉱工業	100.3	-3.4			
製造工業	100.5	-3.3			
鉄鋼業	70.1	-26.2	-0.65	普通鋼小型棒鋼	フェロアロイなど
非鉄金属工業	102.7	-5.7	-0.20	非鉄金属合金粉末	亜鉛など
金属製品工業	93.9	-13.5	-0.68	作業工具	鉄骨など
はん用機械工業	55.3	-35.0	-0.21	工業窯炉・同部分品	除雪機など
生産用機械工業	266.2	-7.7	-0.59	プラウ・培土器・ハローなど	真空装置・真空機器など
業務用機械工業	69.0	-21.8	-1.72		事務機械器具部分品など
電気機械工業	105.6	12.6	0.53	電気測定器	小型電動機
情報通信機械工業	121.0	-12.9	-0.08		カーナビゲーションシステムなど
電子部品・デバイス工業	147.9	21.6	3.41	コネクタなど	半導体集積回路（IC）など
輸送機械工業	78.6	-17.3	-0.88		鋼船
窯業・土石製品工業	80.0	-6.3	-0.21	PCコンクリート製品など	生コンクリートなど
化学工業	79.9	-6.0	-0.22		医薬品原薬など
石油・石炭製品工業	80.7	4.5	0.02	舗装材料	
プラスチック製品工業	66.6	-13.2	-0.10		工業用プラスチック製品など
パルプ・紙・紙加工品工業	74.5	-15.4	-0.87		塗工紙など
繊維工業	58.9	-15.5	-0.45	ニット製アウターシャツ類	織物製外衣など
食料品工業	104.3	1.1	0.26	単体飼料（魚粉）など	（そう）惣菜など
その他工業	84.4	-11.3			
ゴム製品工業	71.2	-10.1	-0.02		工業用ゴム製品
皮革製品工業	27.4	-66.5	0.00		
家具工業	105.4	3.3	0.03	建具	
印刷業	85.6	-13.4	-0.35		凸版・平板印刷物
木材・木製品工業	75.7	-8.6	-0.09		木材チップなど
その他製品工業	76.3	-24.7	-0.18		看板など
鉱業	81.3	-14.8	-0.10		石灰石

本県における主要6業種の動向をみると、電子部品・デバイス工業、食料品工業の2業種が上昇し、業務用機械工業、輸送用機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業、金属製品工業の4業種が低下しました。

第3図 主要業種の鉱工業生産指数の推移（原指数）（平成27年=100）



「令和2年青森県鉱工業生産指数年報」は、令和2年1月から12月分として公表した「青森県鉱工業生産指数(速報)」を、年間補正後の確定値により取りまとめたものです。

指数の作成に当たっては、平成27年を基準年(平成27年=100)とし、県内で生産される141品目を採用しています。

#### 【用語の説明】

##### (1) 原指数

指数作成用データをそのまま指数化したもので、原指数により動向をみる場合には前年同月比が主に使用されます。

##### (2) 季節調整及び季節調整済指数

季節調整とは、景気変動(生産の変動)をみるため、1年間の周期をもつ規則的な要素(四季の変化からなる自然要因、盆・正月などの社会的慣習、決算期などの商慣行の社会要因等)を調整することです。鉱工業生産指数の場合は、季節指数を算出し、それで原指数を除することにより季節調整を行います。季節調整を行った指数を「季節調整済指数」といい、季節調整を行うことによって前月との比較や景気変動を把握することができます。

##### (3) 寄与度

鉱工業全体の上昇または低下に対して、各業種がどれだけ影響を与えたものか示す値です。

##### (4) ウェイト

ウェイトは、個々の品目の鉱工業全体に占める重要度のことで、鉱工業全体を10,000.0とした構成比で示しています。ウェイトは付加価値額ウェイトで、「平成26年工業統計調査」等を基礎に算出しています。

##### (5) 前年比

前年と当年を比較して求められる比率で、変化率で示しています。前年同期比、前月比、前年同月比も同様に算出します。

前年比 = (当年指数 - 前年指数) / 前年指数 × 100